

## ■ プログラム

テーマ 見直される日本の製革技術と安心・安全で高品質の革製品の提供

期日 会場 時間割 〔 〕：講演時間	平成 24 年 11 月 20 日 (火) 吹田さんくすホール 1 番館 4F 吹田市朝日町 1 番 401 大阪シティーアカデミー JR 吹田駅ビル 吹田さんくす 1 番館 4F、Tel.06-6382-7243
12:00~13:00	1 回目 パネル展示 (パネルディスカッション)
13:00~13:10	開会の挨拶 会長 中村 蔚
〔1〕 13:10~13:25	新たな毛皮市場の創造と商品の提案 ツカキ株式会社 商品部 毛皮 MD ○猪飼 隆、小川 健太郎
〔2〕 13:25~13:40	エコレザーの市場認知度と消費者意識の動向 社団法人日本皮革産業連合会 専務理事 ○朝稻 秀男、黒谷 英征
〔3〕 13:40~13:55	靴職人が感じた素晴らしい日本の製革技術の数々を守りたい 靴工房 MAMMA 靴職人 菅野 光広
〔4〕 13:55~14:10	環境に優しい皮革製品の手入れ剤と手入れの基本、手入れの実際 株式会社エス・アイザックス商会 コロニル事業部 鳥井田 浩一
〔5〕 14:10~14:25	婦人靴のヒール取付強さに関する問題点と改善策 東京都立皮革技術センター台東支所 ○砂原 正明、長谷川明良、細渕和成、中島健、山名正一
14:25~15:10	休憩・2 回目 パネル展示 (パネルディスカッション)
〔6〕 15:10~15:25	百貨店における最近の皮革製品の苦情事例について 株式会社消費科学研究所 雑貨グループ 村井 大輔
〔7〕 15:25~15:40	QC を味方に見ませんか？QC を有効活用しませんか？ QC コンサルタント 熊谷 裕子
〔8〕 15:40~15:55	革製品をクリーニングして見えた新しい可能性 アスパイラル 代表 山崎 勝
15:55~16:25	休憩・3 回目 パネル展示 (パネルディスカッション)
16:25~16:30	閉会の挨拶 副会長 清水 正訓

\*時間割と発表順序はあくまでも予定です。都合により変更になることもあることをご了承下さい。

## ■ 講演テーマと概要

<p><b>〔1〕 新たな毛皮市場の創造と商品の提案</b></p> <p>1. 毛皮に親しみ、毛皮の良さを知ったハイエージな消費者への提案商品。 2. 主に襟巻き類や小物で「ファー」に親しみをもっている若年層を販売ターゲットにするため、同年代の若いデザイナーを起用した商品。 この2極を核にデザイン、着心地のよさで新しい市場を創造した毛皮製品を発表します。</p>
<p><b>〔2〕 エコレザーの市場認知度と消費者意識の動向</b></p> <p>2009年に開始した日本エコレザー認定制度は、現時点で認知度は低いものの、着実に商品レンジを拡大中です。認定革と非認定革の共存する市場で派手な広告は「エコレザー以外は危険？」との消費者誤解の原因にもなりかねないため、慎重に行う難しさがあります。後半には、革製品全体にスポットを当て、日本国内での消費者の皮革製品に対する意識や購買動向についても調査を行ったところ、非常に興味深い傾向が認められましたので併せてご報告します。</p>

### 【3】靴職人が感じた素晴らしい日本の製革技術の数々を守りたい

単身ドイツに渡り、一人一人の足の形に合わせた靴づくりを学びました。解剖学や人間工学を学び、外反母趾やリウマチなど足に持病を持つ人のための整形外科靴の理論や技術を身につけました。帰国後、紳士靴や婦人靴メーカーで修行を積み、その後『一人ひとりの足に合わせた靴づくり』を目指して独立しました。そのこだわりは、日本の皮革製品の頂点を決める『ジャパン・レザー・アワード』（阪急百貨店西宮ガーデンズに展示）で昨年グランプリを受賞しました。その中であって、日本にもヨーロッパに負けない素晴らしい革があることを発見しました。この技術を守り二次加工、販売の人達はこのこだわりの日本の革の良さを理解して欲しいと思いを立ちました。その時の感動を熱く語りたと思います。

### 【4】新しく開発した環境に優しい皮革製品の手入れ剤の紹介と手入れの基本、手入れの実際

創業以来100年以上の歴史を持ち、現在世界80カ国以上で愛用されているシュー&レザーケア製品の伝統的ブランド「コロニル」。同社の技術革新並びに自然環境に優しい商品ラインアップのご紹介をします。同時に、手入れの基本である革の見分け方、様々な革の手入れについてブースにて実演をします。

### 【5】婦人靴のヒール取付強さに関する問題点と改善策

近年、婦人靴のヒールの折れ、破損などのトラブルが続出しています。この事故は着用者の安全を脅かします。ここ数年、当所に持ち込まれる依頼試験のうち、約40%がヒール取付強さです。ヒール取付強さの向上は婦人靴業界にとって重要課題です。また、実際の事故ではISO測定法とは逆に踵側から爪先側に力が加わりヒールが取れるケースも見られます。そこで、靴材料とヒール取付強さの関係および実際の事故例を鑑みたヒール取付強さの新測定法について検討しましたのでご報告します。

### 【6】百貨店における最近の皮革製品の苦情事例について

革製品は適切な手入れを行うことで、長く使用できる特徴があります。従って、取扱上の注意事項をよく理解することが肝要です。最近では、ソフトな風合いの革や淡色革製品が多くなり、一層手入れや保管においてその重要性が増してきています。そこで、百貨店（大丸松坂屋）の消費生活相談コーナーに寄せられた品質苦情の中から、手入れや保管に関する事例も踏まえて、最近の革製品で特に注意すべき点について、ご紹介させていただきます。

### 【7】QCを味方に見ませんか？QCを有効活用しませんか？

『同じ過ちを繰り返さない』『不良品を作らない、売らない』をモットーに現場至上主義で、事故が起きたら可能な限り海外でも現場に出向き、改善策を担当者と入念に検討し、問題解決に当たってきました。皮革業界、雑貨業界、QC業界、ものづくりをされている方々への応援メッセージをこめて、品質管理(QC)という役割がものづくりの川上から川下の流れの中、どのように関わることが有効かというポイントをご紹介します。

### 【8】革製品をクリーニングして見えた新しい可能性

クリーニング業界では、一部の熱心な会社を中心として、洗えないとされる素材や革製品が洗えるようになってきました。また、染色などのメンテナンスも可能になってきました。洗えないとされる素材や革製品は、それらを作製しているメーカーはもちろん、専門家に聞いても、誰もその洗い方を教えてくれません。故に、自分たちで考え、数々の失敗を繰り返し、理屈より体験を重視してきた結果、新しい可能性が開けましたのでその成果をご報告します。